

第3回 国道169号高原トンネル安全対策検討会 議事概要

1 日時 : 平成31年3月15日 11:00~13:00

2 場所 : ビジョンセンター東京八重洲南口703

3 出席者 :

委員長	(一社) 日本建設機械施工協会	施工技術総合研究所長	真下 英人
委員	(一財) 砂防・地すべり技術センター	理事	綱木 亮介
委員	国立研究開発法人 土木研究所	地質・地盤研究グループ	
		地質チーム 上席研究員	阿南 修司
委員	国立研究開発法人 土木研究所	道路技術研究グループ	
		トンネルチーム 上席研究員	日下 敦
委員	国土交通省 近畿地方整備局	道路部 道路保全企画官	河合 良治
委員	国土交通省 近畿地方整備局	河川部 河川保全管理官	竹中 一滋
委員	奈良県 県土マネジメント部	道路政策官	津風呂 雅彦
委員	奈良県 県土マネジメント部	次長	加藤 仁志

4 議 事

1) 調査状況

2) 暫定交通開放に向けた対応

3) 今後の進め方

主な議事内容

1) 調査状況

- ・現時点で以下が確認されており、今後も継続して計測を行う。
 - i) トンネル内亀裂については、通行止めから2月中旬頃まで拡大傾向が見られたものについても、最近はやや縮小傾向にある。
 - ii) 既存の孔内傾斜計や新たに設置した計測機器により、トンネルへの影響が大きいと考えられる想定すべり①の周辺地盤変動を確認。

2) 暫定交通開放に向けた対応

- ・地盤変動の分析には、なお時間を要するが、暫定交通開放の緊急性に鑑み、トンネルへの応急対策工事、および、万一の場合に通行止めが出来る監視体制を構築。
- ・トンネルへの応急対策工事は2月から着手し、現在も実施中。

- ・監視基準システムについては、以下の考え方について了解。
 - i) トンネル周辺地盤変動監視のため、トンネルへの影響が大きいと考えられる想定すべり①については、既存孔(SK05-6、SK05-7)および県の観測機器を対象とし、「日計測」とする。一方、想定すべり②・③については、これまでの地盤変動状況等から、観測孔A～Eを対象とし、「週計測」とする。
 - ii) トンネルの挙動については、亀裂変位計、H鋼ひずみ計などを対象とし、「毎時計測」とする。
 - iii) 管理基準値については、他事例や既存の基準等を踏まえ設定し、今後データの蓄積により、必要に応じて計測の内容を含め、見直しを図る。
 - iv) 今回は暫定交通開放であり、梅雨期も含め概ね3ヶ月間は、各種データの集積・分析を行うと共に、大雨警報が発令された場合には通行止めを行い、トンネルや周辺地盤の状況を確認する。

3) 今後の進め方

- ・暫定交通開放の時期については、トンネルへの応急対策工事と監視体制の構築状況によって、道路管理者、国で検討する。
- ・夏頃に第4回検討会を開催し、概ね3ヶ月間蓄積した各種データより、今回設定した管理基準値や監視体制を検証すると共に、トンネルへの影響が大きい想定すべり①への対策方針を併せて検討し、今後の監視体制を確認する。